

会議の概要

令和3年度 第1回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
- 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
- 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和3年5月11日（火）18:30～20:15

場 所：全体協議：1階多目的ホール

グループ協議：幼稚園 1階多目的ホール、大山小 2階農事相談室

玉井小 2階農事研修室、大玉中 1階健康相談室

進行…事務局（指導主事 斎藤）

1 開会の言葉

進行

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。時間になりましたので、順序に従い会を進めてまいります。それでは、只今から第1回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。

2 委員の任命・委嘱状の交付

大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

- ・新たに任命された委員の代表受領 地域住民 伊藤和弥 氏
- ・学校関係者委嘱状代表受領 大山小学校推薦 矢吹吉信 氏

3 教育長あいさつ

大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

皆さんお晩でございます。大変お疲れの中お集まりいただきありがとうございます。本年度最初のCS委員会ということで、代表の方に任命書、委嘱状を交付させていただきました。特に任命書は特徴的で、2つの幼稚園、2つの小学校、1つの中学校、加えておおたま学園CS委員会等6つの委員をお願いしている。他には例がないと思うが、そのわけについては後ほど説明したいと思う。

- 今回任期満了による改選ということで、新たに11名の方に参加していただいた。実は、CS制度が始まって丁度11年になるので、単なる偶然ではないのかとも思った。新しい皆さんとこれまで務めてこられた方々が一緒になって、大玉の教育を推進していただけるようよろしくお願いしたい。特に嬉しかったのは、今回地域に公募したところ、3名の方が応募してくださったことである。とても素晴らしいことで、大玉が進める「みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育」、そして、CS委員会が地域に着実に浸透してきているということを感じている。
- 昨今、教育の在り方が困難な状況下にある。これまでもコロナの感染状況を踏まえて、委員さん方に各校園に様々なご支援をいただいていたが、また去年と違った状況になっている。玉井小は、今週の土曜日に運動会がある。コロナ感染を防ぎながら、子どもたちの学びを保障していくことが我々の仕事であるので、皆さんの知恵をいただきながら、このような事態を乗り切っていければと思っている。



学校を取り巻く状況は、(コロナ禍でなくとも)大変である。CS委員会の果たす役割は、こういう時だからこそ大事であると思っている。どうぞよろしくお願いしたい。

○ CS 11年目ということがあったので、私がこれまで書いた記事や話したことを記者に書いてもらった記事を資料として添付した。

1つ目が『内外教育』という専門誌に掲載されたもので、“小規模自治体の「開かれた学校」”は、インタビューの内容を記者がまとめたものである。ここで述べていることは、「学びの循環と還元」についてである。学校の活動等に地域の人たちに関わっていただいているが、それは地域人材の活用という視点ではなく、生涯学習の一環として、地域の人たちにとっても学ぶ機会になっていることを強調したものである。

2つ目の資料は、2年前の第10回大玉村教育フォーラムに来ていただいた現全国CS連絡協議会会長の貝ノ瀬滋氏が記念講演の際にお話しされたことをまとめたものである。大玉の教育の特色を表すキーワードは、「縦軸の広がり(=幼・小・中一貫的教育)」、「横軸の広がり(=CS等)」、「学びの還元と循環(=地域学校協働活動等)」であるとまとめられている。

3つ目は、平成27年7月の『教育時評』に執筆させてもらったもので、地方創生と大玉の教育の関係性について記したものである。ここで述べていることは、おおたま学園構想を母体としてCSを導入したことである。(前教育長<現村長>の時代からの継続)

4つ目は、平成26年2月に学研の取材によるものである。その中で、スケールメリットという言葉を取りあげた。普通はスケールが大きい方がメリットが大きいという意味で使われるのが一般的だが、大玉村は規模が小さいということをメリットとし、それを最大限に生かして様々な教育を行っているということを述べている。大玉は無医村ではあるが、コンパクトでありワクチン接種ひとつとっても動きやすい。また、学校との関係でもすぐにやりとりができるというよさがある。情報交換をしたり、考えたり、アドバイスをしたりすることがしやすいことがあげられる。これからも「とても動きやすい」「規模が小さい」というスケールメリットを実感し最大限に生かしながら、大玉の教育を進めていきたいと思っている。

○ 現在、コロナ禍で先行き不透明ではありますが、こういう時こそ、CS制度、CS委員会が機能していくことが大切であると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4 自己紹介

- ・ CS委員及び事務局職員の自己紹介

5 役員改選(座長 教育長)*以下敬称略

- ・ 会長(伊藤 和弥)
- ・ 副会長(矢吹 吉信)(吉田 都)
(館下 愛理)

6 CS委員会新役員あいさつ

(伊藤会長) 皆さん、お晩でございます。新会長ということで選任された伊藤です。前任も会長でしたが、これからの2年間もよろしくお願いします。またこういう形でお世話になることになったわけですが、新しく入ってこられた委員の皆さんも多くいらっしゃるので、楽しく賑やかな会議ができるように進めていければと思っています。ご協力よろしくお願いいたします。



(矢吹副会長) 副会長に選任されました矢吹です。私は今年で7年間CSに携わっています。伊藤会長にいろいろ教えてもらいながら、最近CSのことが分かってきました。昨年は子どもたちの笑顔が見たいからということで様々な活動をさせていただきました。その中で、子どもたちが笑顔になると先生方も笑顔になって、もちろん保護者も笑顔になっていました。先生方の笑顔が子どもたちや保護者の笑顔につながることも分かってきたので、それを念頭に

置きながら、先生方の味方となって頑張っていきたいと思います。皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(吉田副会長) 前年度に引き続き副会長をさせていただきます吉田と申します。前年度は何も分からず、手探りでいろいろ教えていただきながら務めさせていただきました。今回もCS副会長ということで、子どもたちのために今何ができるか、どうしたら子どもたちに「大玉にいて良かった。」「ここで学んで良かった。」と言ってもらえるかを考えながら運営していきたいと思います。皆様のご協力の程よろしくお願いします。

(館下副会長) 今回副会長になりました館下です。CS委員は今年で5年目になってしまいました。子どもが幼稚園の時にボランティアになったのを始めに、小学校のPTAに関わるようになり、CS委員会に入るようになったのですが、その子どもも中学生、高校生になってしまいました。幼稚園や小学校とあまり関わる機会がないのかなと思っていたのですが、このCS委員会の活動を通して保護者の皆さんと学校園との架け橋(つながり)になればいいなと思っています。よろしくお願いします。

7 本日の日程、内容、進め方及び諸連絡について (指導主事 斎藤)

- 申し合わせ事項について
 - ・CS役員会への参加「会長、副会長、校長(園長)」
 - ・CS委員会への参加…学校代表CS委員1名は校長。(校長代理として意図的に教頭参加の機会をつくる。但し、教頭参加の場合はオブザーバーとする。)
- CS委員報償について(手続きのお願い)
- 「学校運営協議会の設置等に関する規則」について
 - ・守秘義務を有すること
- 本日の日程について
 - ・協議…各校園の学校(幼稚園)経営の重点について、7月開催の第3回CS委員会で協議する内容について
 - ・今年度から全体共有の時間を設ける。

8 協議 (座長 CS副会長: 矢吹)

(1) 令和3年度おおたま学園コミュニティ・スクール委員会の方針・年間活動計画について

① 理念についての再確認

(指導主事 斎藤)

- ・資料に基づき説明
- ・学校運営協議会は各校のオープンスクールの後に開催する。
- ・学校の抱える問題が山積しており、地域と一緒に解決していかなければならなくなっている。(学校の応援団としてのほたらき)

② 令和3年度の重点について

- ・令和3年度は「地域学校協働本部事業(地域学校協働活動)」との関連を明らかにしながら、以下の項目を重点とする。

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
- コミュニティ・スクール委員会における熟議においては、各校・園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を充実させるための取組を検討する。
- オープンスクール(おおたま学園主催の授業研究会)に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。このことにより、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルがより有効に機能するようにする。
- 第3回おおたまコミュニティ広場(第13回大玉村教育フォーラム)は、保護者、村民の方々が

年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるよう、呼びかけ・周知を図る。

なお、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう組織・運営方法を工夫する。

- 学校が主体となって企画するおおたま・オートム・フェスタ（第4回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。

③ 令和3年度おおたま学園コミュニティ・スクール委員会活動計画（案）について説明

- 6、9、11月実施の各校園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観一事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）

学校運営協議会には、学校園の運営状況の説明が十分できる体制で臨む。

- 7月6日第3回CS委員会ではおおたま・オートム・フェスタの内容の確認を行う。
- 役員会は必要に応じて実施する。
- 10月2日（土）のおおたま・オートム・フェスタはCS委員の皆様にご協力いただき実施。幼稚園は10月15日（金）実施予定。
- 第2・4・6回は学校の課題について協議するので、実施日が変わる場合もある。
- 2月に第3回おおたまコミュニティ広場を実施する。日時は未定（後日決定する）

（2）令和3年度地域学校協働活動事業計画について（CSディレクター 佐藤）

資料に基づき説明

（3）各園・各校ごとの意見交換（4会場に分かれて実施）

- ① 各園・各校から（今年度重点的に取り組むこと、お願いしたいこと、その他）

- ② 今後のCS委員会での協議内容について

幼稚園：1階多目的ホール

大山小：2階農事相談室

玉井小：2階農事研修室

大玉中：1階健康相談室



（4）各園・各校からの報告 ※（3）①②について

（座長）

各校園ごとにいろいろお話ができたことと思います。時間に限りはございますが、各校園からの報告ということで、大玉中学校よりお願いします。

① 大玉中学校（浅和CS委員）

学校経営ビジョンについて説明を受けた。

重点事項を「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る（知育）」、「地域や社会と接点を持ちつつ、多様な人々との心の交流を通して豊かな人間性や社会性を育む（徳育）」、「様々な体験活動を通して、心身の健康増進と防災・安全教育の充実を図る（体育）」と掲げ、具体的事項についても学校で十分な検討を加えているという説明があった。例えば、絵はがきを書いて一人暮らしの家庭に送る等の話もあった。次回の協議内容は、部活



動と関連して校庭整備のことや、先生方の笑顔が大切であるので、それに関連したことを話題にできればよいと考えている。

② 大山小学校 （矢吹CS副会長）

今年度の教育目標、学校からの要望事項等について校長先生から説明をいただいた。昨年度のCS委員会で、校長先生からコロナ禍のため秋に運動会と学習発表会を併せて行いたいという話があった。CSとして何かできないかと考え地域の有志に相談したところ、校庭にステージを造って、運動会と学習発表会を一つにした“Vamos Ohyama Deportes”を実施した。子どもたちや先生方をはじめ多くの方々の笑顔が見られたので今年度も行いたいとの話があった。

コロナ禍ということで先生方はとても大変であり、例えば、子どもたちも給食の時間にも黙って食べなくてはならないこともあり、学校生活全般にワクワクする時間が少ないということである。週に一回豪華な給食メニューがあるといいなとも思うのだが…。今後、子どもや保護者と先生がワクワクできるようなプロジェクトについても考えていきたい。



③ 玉井小学校 （後藤CS委員）

学校要覧に基づき校長先生から説明をいただいた。教育目標は、「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」で、児童像を下記のように設定している。

「自ら学ぶ子」

- ・自主的に学んだり、活動してもらいたいということ。
- ・今年は一人1台のタブレットが配置されるので、この使い方についても、子どもだけでなく先生方も大変になるという話があった。
- ・体験学習でボランティアの方々が入っていただいているが、そのことを基にして、自主的に行動できるような子どもたちにしたい。

「心豊かな子ども」

- ・自己肯定感の醸成が大切である。

「たくましい子ども」

- ・メディアについては、悪者のイメージの部分も少しはあるのだが、そうではなくて、健康的な生活に向けてどのようにしていったら良いかについて話し合った。

学校でいろいろな取り組みを考えていただいておりますととても感心した。一保護者としても何か協力できないかと改めて考えた。（前年度もコロナ関係でいろいろな問題があった。消毒は先生方のかなりの負担になっていた。CS委員が実際に出向き体感したが…。）

また、これまではいろんな専門性のあるボランティアの方々に学校に入っていたが、今はできなくなってしまったという状況である。ただできないというのではなく、どうにかしてできるようにする方法も考えていったらいいのではないだろうか。意外と大人よりも子どもの方がそういうアイデアをもっているという話があった。良い例としては、5年生が田植え踊りの映像を今年成人される方にメッセージとして贈ろうという意見を出したことである。自主性を育てる教育の成果なのかなと感じた。

次回は、子どもたちから何かを発信することで地域に協力できないか、何ができるのかを協議していく。



④ 大山幼稚園 (佐原CS委員)

大山幼稚園の教育目標は「夢に向かってがんばる子」である。子どもたちの現状を見ると、今年入った3歳児の19名がまだおむつがとれていないのだが、徐々に外せるよう先生方が頑張っている最中ということである。コロナ禍の中で、先生方もいろいろなことを考えながら進めている状況で、私たちCS委員がなかなか手伝えないのが残念なのだが、今後幼稚園に出向いた時には、支援等と一緒にしていきたいと思っている。

これからは、様々な課題について話し合っていくことになった。今後も大山幼稚園チームとして頑張っていきたい。



⑤ 玉井幼稚園 (今野CS委員)

副園長先生から要覧に基づき幼稚園経営について説明いただいた。その中で特に印象に残っているのは、幼稚園の先生方がお膳立てをしてレールを敷いて、その上を園児たちに歩ませるのではなく、園児一人一人に考えさせる時間を与えたり、絵本や物語についても興味を持っていくなかで自分がやりたいことは何かを考えさせたりすることも大切にしながら、教育に当たっているということである。また、対人関係においても、自分と他人を比較する中で違いを受け入れられるよう指導していることも挙げられる。

体験活動は重要な意味を持っているので、地域の方々の協力を得ながら実施していきたいということである。本日野菜の苗植えの活動も実際に行えたという話をお聞きした。

また、さらにたくましい人になって欲しいという願いを込めて、最後まで諦めないで頑張りを通せるような子に育てていけるよう努力していきたいということである。

ただ、そういう教育を進めていく中で、現状抱えている問題についても説明があった。例えば、月曜日の朝、保護者がたくさん荷物を抱えて幼稚園に来るわけだが、それをスムーズに園の中に受け入れられるような建物の構造になっていないという悩みもあるということである。今すぐそれを改善するのは難しいので、先生方が現状を考え、何とか工夫しながら対処しているということである。行政としてもそういった現状を見ていただき、改善できるところはぜひお願いしたい。時間がなくて、次回までの検討課題まではいかなかった。



(5) 全体共有

(座長)

全体共有ということで、今の報告を受けて確認しておきたいことや共通理解を図りたいことなどあれば出していただきたい。

(麻生CS委員)

5月15日(土)の玉井小運動会と月末の南達陸上は予定通り行われるのか。

(小林校長)

玉井小の運動会については、コロナ対策を十分に講じ、内容を絞って午前中に実施する予定である。県内の感染状況が良くなってきて、ステージも上がったということで、本日保護者宛に依頼をした(応援に来る人数を一家庭4人まで)。対策をしっかりと実施したいと考えている。

(斎藤指導主事)

南達陸上は昨年度実施できなかった。今年度は、規模を縮小し、今までは5, 6年対象だったが、今年度は6年生のみの参加にして人数を減らした。また、昼食の時間のリスクが高いため、午前中だけの実施として時間を短縮し、感染対策を万全にし現在は実施の方向で進んでいる。実行委員会においても、スタッフ数を今までと同様に確保してスムーズに流れるようにするということを確認している。

(座 長)

今年各校園で予定通り奉仕作業は実施するのか。去年は全体でできなかったもので、草刈り作業をPTA本部、商工会青年部などが行っていたのだが、今年も難しければCS委員に声をかけて欲しい。動いてくれるメンバーが揃っている。

大山小で計画している「学級経営交流会」で、ベテランの先生が若手の先生に指導をする機会があって、若手の研修の場として良い取り組みであると思う。他の校園ではどうか。

(安田校長)

授業の改善という意味合いが濃いのだが、授業を互いに見せ合うことを年間計画に位置付けて行っている。参観した感想や意見を本人に書いて渡したり、直接話したりするようにしている。他に授業研究会を行い、事後研でお互い意見を出し合って改善を図っていくということもしている。あくまで授業中心である。

(小林校長)

玉井小学校は、今年度初任者が入っており、初任者研修がある。また、2年目の先生もいるので2年次研修というものもある。対象の先生だけでなく、様々な先生が初任者研修、2年次研修に関わるように取り組んでいる。それ以外にも若手の先生もいるので、一緒に学ぶような体制で組織的に取り組み、育成していきたいと考えている。

(座 長)

次回以降も全体共有の時間を設定するので、気軽に質問や意見を出していただければと思う。以上で協議を終了する。

9 連絡事項

(1) おおたま・オータム・フェスタについて

資料に基づき概要説明

- ・昨年度は、コロナ禍の中でオータム・フェスタを実施できなかった。もともとオータム・フェスタはCS委員の発案で、子どもたちの体験活動を充実させたいということでスタートした。
- ・異学年交流、他校園交流という形で、今までオータム・フェスタは大変充実していた。子どもたち、保護者等の評価も良かった。
- ・今年度も資料の通り実施したい。(一昨年度と同じ内容。各校園の負担を減らすことにつながる。)
- ・コロナ禍であるため、その都度判断が必要である。
- ・感染対策について十分な配慮が必要である。
- ・活動内容について…問題点を踏まえて、おおたま学園(各部)で協議する。(原稿作成5/17~6/14) → 7/6(火)第3回CS委員会で実施案検討 → 7/28(水)おおたま学園で細案検討 & 関係団体も含めた合同会議
- ・CS委員の所属希望書の提出(本日中)

(2) その他

特になし

10 閉会の言葉

おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都

皆さまお疲れ様でした。以上をもちまして令和3年度第1回おおたま学園CS委員会を終わりたいと思います。ありがとうございました。